

②旧福本家住宅

住所：奈良市学園南1丁目2-15
※開催期間中以外は入館することができませんので、ご注意ください。
※会場へは階段をお上がりください。また、階段が急になっていますのでご注意ください。

藤村太一



1986年兵庫県生まれ。2015年から独学で木彫を始め、制作過程は、木を彫るという古典的な行為ではあるが、木彫だからこそ表現できる可能性を探っている。近年は身の回りに起きた出来事や見た光景をインプットし、それらの本質を自らの視点で屈折させた作品を制作。主な展覧会に、2021年 個展「Imitation or mimic」(千鳥文化ホール/大阪)、2020年 個展「REACTION」(vou/京都)、2019年「六甲アートアート展歩歩2019」(記念碑台/兵庫)、2017年「F The Art World」(チェルシー/NY)など。

わにぶちみき



2012年 英国 ボーンマス芸術大学大学院美術修士課程修了。2004年 近畿大学芸学部芸術学科造形美術専攻卒業。第27回ホルベイン・スカラシップ奨学生(2012年-2013年)。人と人、人と場所、場所と記憶。わたしたちの作品は厳密にいえばその接点でしかないと考えている。こちらとあちらを繋ぎ、あちらを「理解」しようとする歩み出させるトリガーとなる。「接点としての」作品をつくりつけている。

藤原正和



1971年生まれ。2017年 VOLTA13(スイス)、2018年玉川島鳥居SCアートウォール南館「階エントランス」展示。2018年むしXI型藤原正和個展(同時代ギャラリー/京都)、2019年アートのストリーム(心齋橋大丸心齋橋店/大阪)、2019年 KUNST RAI ART(オランダ)、2019年 ART OSAKA 2019(ホテルグランヴィア大阪)、2019年 UNKNOWN/ASIA 2019、2019年 OSAKA×MILANO DESIGN LINK 2019(ホテル日航大阪)、2020年 むしXI型 藤原正和個展 (gelatin/大阪)、2020年 UNKNOWN/ASIA 2020 ONLINE、2021年美術倶楽部/東京)ほか

濱野裕理



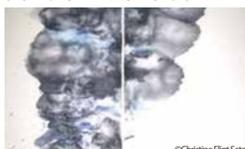
心の内側にある心象を描きながら、自分自身の存在やそれを取り巻く現在の社会について考察しています。1986年奈良県生まれ。2009年 京都嵯峨芸術大学 造形学科 油画分野卒業。2017年「京都府新鋭選抜展2017-Kyoto Art for Tomorrow-」(京都文化博物館/京都)、2018年「神戸アートマルシェ2018」(神戸メリケンパークオリエンタルホテル/兵庫)、2018年「東美アートフェア2018」(東京美術倶楽部/東京)ほか

梶山美祈



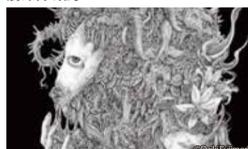
私は全ての生命の中に神が存在すると確信しています。その神を把握するために作品を作っています。2020年 ことばを食べるカフェみずみ「光射す」個展、2020年 学園前アートフェスタ pre「集合」(優秀賞受賞)、2021年 岡本コミカ「共鳴」個展、2021年 artlivekobe、2022年 windfall gallery「境界線」個展。

クリスティーンフリントサト



自然界に触発されると、マクロとミクロの世界が見える。マクロの濃淡とミクロの線がある。イギリス人。1982-1992年 書を学ぶ(師：川邊清華・毎日書道)、1999-2002年 中国水墨画を学ぶ(師：李庚)、個展・2003年 Wall Gallery 大阪市、2011年 Gallery Den-Mym 京都府、2019年 門前おかげ楼生駒市。その他、多くのグループ展に参加、著書や所蔵、受賞歴も多数。

藤森太樹



1988年 兵庫県生まれ、神戸市在住、ペン画家。顔料インクのペンを主材に墨や透明水彩を用いてペン画、細密画を制作。ペンにより描写された線は「言葉」を、透明水彩による描写は「感覚」を意味しています。作品制作を通して最終的に自身の内側に幼少の頃の記憶が残り、唯一言葉というものの範疇とは全く隔絶された絶対的な「死」を伝える事が作家としての本懐であると考えています。個展やグループ展など多数出展参加。

⑥学園南1-9ガーデン

住所：奈良市学園南1丁目9-1
※作品は屋外にて展示しています。
フェンスの外から鑑賞お願いします。

シュウ

命の象徴である赤、その線が織り成す空間表現。



①GALLERY GM-1

住所：奈良市学園南1丁目3-2
※ギャラリー内にて展示しています。

高田治



1985年兵庫県生まれ。主に金属と陶などを用いて制作している。自分の作品には、腕や脚が欠落しているもの、又は胴の一部に空洞があつたりするものが多々あるのだが、これは必要ではないと自分が感じた結果である。多分、自分も何か欠落していて、制作すればするほど、それと対峙することになる。そして、自分の欠落を知りは知るほど、理想とする形に程近い自分を知り、あきらめの様な気持ちとともに、開き直った自由のようなものを手に入れられたような気がする。

④大和文華館 駐車場

住所：奈良市学園南1丁目11-6
※駐車場にて屋外展示しています。

馬淵洋



彫刻家、那道書家、特殊工作人、BQアーティスト、など。1969年生まれ。1988-93年 金沢美大で彫刻を学ぶ。2012-14・16年 西宮船坂ビエンナーレ(兵庫県)。2015年 架空模型店 六間模型(兵庫県)。2019・2015年 下町芸術祭(兵庫県)。2020年 生野ルートダリジャン芸術祭(兵庫県)、芸術の杜(兵庫県)。

⑤中野美術館

住所：奈良市あやめ池南9丁目946-2
※開催時間10:00~16:00(最終日15:00まで)
※美術館前にて屋外展示しています。

高松威



息がしやすくなる。風が吹き抜ける川の岸辺の雰囲気を感じ出します。ユートピアのような大きさではない、等身大を最小律で示してくれる鉄で制作しています。「有限性の中で消えていく物事は、すぐそばで、気付くことも出来ない刹那に土に還り、風に消える。」

モリン児

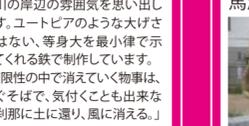


1962年 大阪生まれ。角材の支持体にカラーージュしてインスタレーションしています。展示空間がモリン児の世界になり体感して頂ければ幸いです。いきものを命つめていて、肉体が生命を持って動いている不思議さの奥には宇宙が広がって来ます。そのそのファンタジーを表現したいと思っています。

⑧帝塚山学園18号館

住所：奈良市学園南1丁目6-27
※馬淵洋、高松威の作品は1Fロビーにて屋外展示しています。

馬淵洋



彫刻家、那道書家、特殊工作人、BQアーティスト、など。1969年生まれ。1988-93年 金沢美大で彫刻を学ぶ。2012-14・16年 西宮船坂ビエンナーレ(兵庫県)。2015年 架空模型店 六間模型(兵庫県)。2019・2015年 下町芸術祭(兵庫県)。2020年 生野ルートダリジャン芸術祭(兵庫県)、芸術の杜(兵庫県)。

奈良市立一条高等学校 絵画部 有志(2Fエントランスホール)
奈良市立京西中学校 美術部 有志(1Fエントランス)
奈良女子高等学校【総合進学コースデザイン選択】(1Fエントランス)
地元住民展(2Fラウンジ・1Fエントランス)

帝塚山中学校高等学校 写真部(SF西部公民館壁面ギャラリー)

※作品写真はイメージとなりますので、実際の展示作品とは異なる場合がございます。

③浅沼記念館

住所：奈良市学園南1丁目7-15
※開催期間中以外に入館することができませんので、ご注意ください。

澤田知子



成安造形大学写真クラス研究生を修了。現在は同大学客員教授、関西学院大学の非常勤講師。キャン写真新世紀、木村伊兵衛写真賞の選考委員をはじめ海外でも審査員として写真に関わる。学生の頃よりセルフポートレイトの手法を使い作品を通して内面と外見の関係をテーマに作品を展開。デビュー作「D400が2000年まで」(神戸メリケンパークオリエンタルホテル/兵庫)、2018年「東美アートフェア2018」(東京美術倶楽部/東京)ほか

池原悠太+木ノ戸久仁子



池原悠太：2010年成安造形大学造形学部卒業。再生をテーマに作品を制作しています。自然界を表す動物や、人間社会を象徴するノイズや人工物が混成する世界を描いています。水彩画や写真、テキストやコーラージュしていくことで、あらゆる事が大きな潮流の中で渾然一体となり循環していく様を表現しています。あらゆるものは衰亡と再生のプロセスの中にあると考え、その過程に価値を見出しています。木ノ戸久仁子：1976年 滋賀県に生まれる。1995年 信楽登り窯窯元にて作陶をはじめ。若手オブジェ集団SEEDSに参加。1998年 ニューゼalandにて一年間作陶。2001年 信楽窯業試験所給養科修了。ニュージーランドにて作陶。2002年京都に築窯。2004年 滋賀県信楽町に築窯。2011年 滋賀県比叡平に築窯。

杉本ひとみ



自然物の張りや柔らかさを感ずるフォルムを用い、観る者の気持ちや心地よく逆なでするような、くすくす笑え楽しい世界観を生み出しています。2018年「craft trend fair」(COEX/ソウル)、2019年「ART IT NOW」(阪急うめだ、[EWAEE London] Posk Gallery(ロンドン)、(神戸アートマルシェ)オリエンタルホテル、[KOGE] ART FAIR KANAZAWA KUMU金沢、2020年「春色満開」松坂屋名古屋店、[随地色々] 福岡三越、2017-2020年 韓国水原大学助教。

中橋多恵子



「記憶を探りだしたプロセスは、作家自身の宗教感とパーソナルな経験から抽出したイメージを一度絵画にかき起こし、サンドペーパーで表面から削っています。あえて残したサンドペーパーは記憶が形を変え、自身の中に残り続けていくことを意味します。」

松村大地



2001年生まれ。切り絵を主とした作家活動や展示会の企画を関西に拠点に展開。最近は、線を切り出すことを通じて、流動的な形体や仮象をテーマとした作品を制作。また、制作のみならず、領域横断的に芸術の地平を歩こうと思索。2018年 個展「完全か不完全か」(ギャラリーカフェCoen)、2020年 主催三人展「三篇の紙集」展(MIRAIEGALLERY)、2019年より、京都芸術維大学デザイン・建築学課程に在籍。

美和いちこ



1975年 福岡生まれ。2004年より大阪を拠点とするクリエイターチーム(kiske)に所属し、グラフィックデザイナーを業にしながら2010年より樹脂を使用した立体造形の作品の制作をスタート。主に生成エチレン樹脂ピニル共重合体・炭化水素系樹脂とシリコンを使用し、自分の中心心象風景と自然への畏怖を表現する事を追い求めて作品を制作。大阪を中心に、個展・グループ展・アートフェア多数、所蔵：福岡美術館 Furin-art 福林庵。

シュウ



現代美術家。現代芸術国際AU会員・元新象作家協会会員。『空神』シリーズ14作目は怒りを表す。1995年阪神・淡路大震災発生、『生きる重さ』を見つめる『大震災後も夜が明ける』を副題とした作品(身代わり空神はNo97)を国内・欧州で発表し続ける。第48回新象東京本展展賞(最優秀賞)・京都府知事賞、市展公募1席7回(神戸・姫路・川西等)・2席10回受賞、芸術祭選出(木津川アート・はならあと等)。

⑨奈良市西部会館

住所：奈良市学園南3丁目1-5
※Yutanは3F学園前ホールラウンジ、下野友嗣は5F西部公民館壁面ギャラリーに展示しています。

Yutan



14年間指定難病で「外出できない」「食べられない」といった生活の不自由を経験。暮らしを整え、自然と触れ合う暮らしの中で「あらゆる物事すべて繋がっている」と気づき、病気や克服、動物、植物、日々の風景などを、廃棄物とアナログ画材を使い独自の色彩感覚で作品制作。「小さな喜びを大きなしあわせと感じる心を育む大切さを、書籍や公式ブログとして日々綴り、作家としても各方面で活動中。

下野友嗣



1984年 兵庫県生まれ。2007年 大阪芸術大学美術学科卒業。2017年 千葉市に転居。関西を中心にその他、各地域(海外含む)にて、芸術祭、アーティストレジデンス、アートフェア、グループ展、ワークショップ等を行っている。

⑩パライディ学園前

住所：奈良市学園北1丁目9-1
※北館 2Fトイレ前の会議室にて展示しています。
近鉄学園前駅を中心としたまちづくりリアルバム2020年選考展ダイジェスト映像、地元住民展

帝塚山大学現代生活学部居住空間デザイン学科 地元住民展

※作品写真はイメージとなりますので、実際の展示作品とは異なる場合がございます。

タイアップ企画 大和文華館

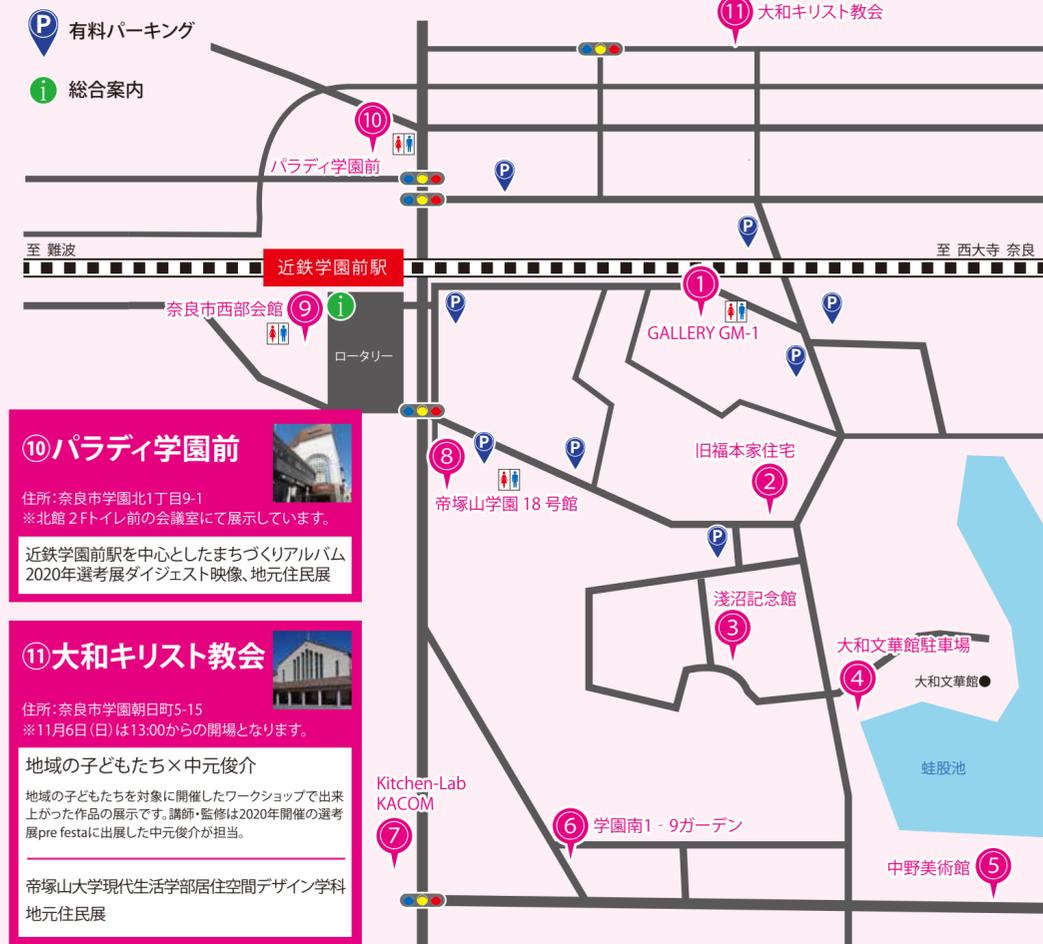
特別展 「住吉広行 — 江戸後期やまと絵の開拓者 —」

江戸後期やまと絵界で大きな役割を果たした住吉広行をメインにとりあげる日本で初めての展覧会です。その勤勉な学習姿勢や精緻で豪華な描写にご注目ください。

会期：令和4年10月8日(土)~11月13日(日)
開館時間：午前10時~午後5時(入館は午後4時まで)
入館料：大人950円、高校・大学生730円、小学・中学生無料
※20名以上の団体は相当料金の2割引で引率者1名無料 ※「障がい者手帳」をお持ちの方とご同伴者1名2割引
会場：大和文華館 〒631-0034 奈良市学園南1丁目11-6 電話：0742-45-0544 FAX：0742-49-2929



住吉広行筆「源氏物語須磨巻絵巻」(部分) 齋宮歴史博物館蔵



タイアップ企画 中野美術館

秋季展 「小出楢重・須田国太郎から元永定正まで—関西ゆかりの作家たち—」
「近代の日本画」

小出楢重や須田国太郎の洋画から1980年代の元永定正の版画まで、関西にゆかりのある作家の特色ある作品をお楽しみください。横山大観、村上華岳、富田溪仙などの日本画展も同時開催いたします。

会期：[前期] 令和4年9月10日(土)~10月10日(月・祝) [後期] 令和4年10月15日(土)~11月13日(日)
休館日：毎週月曜日 開館時間：午前10時~午後4時 入館料：一般600円、シニア(65歳以上)：大・高生500円、中・小生250円
会場：中野美術館 〒631-0033 奈良市あやめ池南九丁目946-2 電話・FAX：0742-48-1167



小出楢重(天神橋風景)

元永定正(さとう)

※作品写真はイメージとなりますので、実際の展示作品とは異なる場合がございます。